

1776
2008.4/10

大阪教育

昭和29年2月16日第三種郵便物認可/毎月10日発行/1部30円(組合員は組合費を含む)/発行・大阪教職員組合・〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町7-11・大阪府教育会館7F/TEL 6768-2330/FAX 6768-2239/daikyoso@daikyoso.jp 編集発行人・加藤秀雄/印刷・関西共同印刷所

第79回 大阪メーデー

とき 5月1日(木) 午前9時開会
ところ 扇町公園

大教組ホームページへアクセスを
<http://www.daikyoso.net/>

『評価システム』は今すぐ撤回せよ

署名 提出行動

大教組は3月26日、府庁内で「評価・育成システム廃止・撤回」署名提出行動を行い、大教組の各単組・支部・専門部の代表が参加しました。今年度提出された署名の合計はこの時点で13000筆を超え、参加者全員が職場・教職員の声を府教委に突きつけた。またこの発言にたった辻保夫大教組委員長は、「システム」が制度破壊を起している無数の実例が示されました。府教委は一日も早く廃止・撤回の決断をすべきだ」と強く求めました。

職場に渦巻く声突きつけた

「システム」の犠牲者は子どもたち

○私の学校は教職員14名の小さな学校で、この春8人の子が卒業しました。卒業に際し子どもたちはすべての教職員に色紙を贈ってくれました。教職員は団結しお互い助け合って、

みんなで子どもたちを見てきました。どうしてSとDで評価し、賃金に差をつけることができるのでしょうか。(泉佐野)

○「首席はSをつけよ」と市教委から指導があります。「若いからB」という話がかまたにあふれ、青年教職員はやる気を失って

ます。同僚をフォローするという空気がなくなってきました。一番の犠牲者は子どもたちです。(南河内)

○ある新任教員は指導困難に直面しましたが、学年団のさまざまなフォローをうけ、がんばりぬくことができました。みんなで支え合うというのが、学校の姿です。「システム」を押しつけ、こうした関係を崩すことはやめてほしい。(大東)

○学級の指導困難のなか、プライドを捨て周りの先生に支援に入ってもらいました。それも子どもたちのためでした。評価はC、B評価に対しては怒りが込みあげてきますが、C評価をうけると深く傷つきます。教師として自分は駄目、人間として駄目じゃないかと思ってしまう。(守口)

○ある新任教員は、校長から「大阪に影響を与えられる人がA、国に影響を与える人がB」と言われ、ショックを受けました。これから大阪の教育を支える青年のなかに、校長や教育委員会への不信が広がっています。それでも「システム」続けるのですか。(青年部)

○青年はいくらがんばっても評価はB。それで賃金に差が生まれ、これが定年までついてまわる。育成どころか不信感・失望感だけです。(八尾)

「ランク付け」したくない、と校長も悩む

○子どもの指導のため、遅くまでがんばっている教職員の姿を見ている校長は、「評価を開示する」この時期はつらいとこぼし、悩んでいます。(南河内)

○「申し訳ないけどBです」はある校長の言葉です。多くの校長はランク付けなどしたくないと思っています。「撤回しかなければ大多数の教職員の声です。(南河内)

○「客観・公正」と要求したが、校長は「主観」でやらしてもらおう」と言い放ちました。(柏原)

○仕事に打ち込んだにもかかわらずBと評価され、プライドを傷つけられ、やる気を無くしています。定年を待たずに去る教師が多くなっています。校長がすべての教職員を客観・公正に評価できるわけがありません。校長も教職員を評価することに思い悩み、この制度が原因で退職に追い込まれています。(堺)



未来担う青年のなかに不信感広がる

○ある新任教員は、校長から「大阪に影響を与えられる人がA、国に影響を与える人がB」と言われ、ショックを受けました。これから大阪の教育を支える青年のなかに、校長や教育委員会への不信が広がっています。それでも「システム」続けるのですか。(青年部)

○青年はいくらがんばっても評価はB。それで賃金に差が生まれ、これが定年までついてまわる。育成どころか不信感・失望感だけです。(八尾)

○学級の指導困難のなか、プライドを捨て周りの先生に支援に入ってもらいました。それも子どもたちのためでした。評価はC、B評価に対しては怒りが込みあげてきますが、C評価をうけると深く傷つきます。教師として自分は駄目、人間として駄目じゃないかと思ってしまう。(守口)

○ある新任教員は、校長から「大阪に影響を与えられる人がA、国に影響を与える人がB」と言われ、ショックを受けました。これから大阪の教育を支える青年のなかに、校長や教育委員会への不信が広がっています。それでも「システム」続けるのですか。(青年部)

○青年はいくらがんばっても評価はB。それで賃金に差が生まれ、これが定年までついてまわる。育成どころか不信感・失望感だけです。(八尾)

実践にすぐ役立つ
先輩のアイデア
連載 「私の教育実践」
「子どもと絵本を結ぶ第2弾」

「主張」
焦点の課題わかりやすく
「特集」
教育と学校現場めぐる
ホットなテーマ

「大阪教育」は08年4月より、月1回毎月10日付発行となります。タフロード判4面、いっそう充実した紙面を読者のみなさんにお届けします。

「大阪教育」新企画満載



座談会

橋下府政のもと 新たな府民運動・ 教育運動の前進を

特集2・3面

4月下旬 ILO・ユネスコ調査団が来日

評価システム検証のため 大教組などにヒヤリング

全教の申し立てをうけ、CEARTは3次にわたる勧告で二連の日本政府の対応を批判し、今回の来日が決定しました。調査団は文科省などを訪問・調査することも、全教や各県教職員組合とも面談も行い、大教組へのヒヤリングも予定されています。

4月26日には教職員人事政策の抜本的転換をめざす全教主権の学習交流会が大阪で開催されます。大教組は調査団派遣を契機として、「勧告」を遵守した制度の見直し・改善を前進させるとともに、「評価・育成システム」の廃止・撤回、「指導力不足」教員政策による管理強化を許さない運動をさらに強めていきます。

湧水

いい気なものである。この国の教育課程行政に関わる人たちが

「今日の『学力問題』の元凶は、90年代の『新学力観』の勘違いにもとく教育にある」(梶田教一・中教審教育課程部会長)というのである▼臨教審時代から教育課程行政に深く関わり、現兵庫教育大学学長の梶田氏は「教員養成セミナー」(08年4月号別冊)誌の改定学習指導要領に関するインタビューで、臆面もなく語る。「関心・意欲・態度」が「知識・理解」よりも先に置かれたことを、教員が「知識・理解の偏重を正すべき」と受け止めた、「関心・意欲・態度」が一番大事だと、ふれ廻ったのは他ならぬ当時の文部省だ。「新しい学力観」は、これまでの子どもに知識や技能を共通して身に付けさせる教育から、子どもが自ら考え主体的に判断し行動できる資質や能力の育成を重視する教育へと転換を図ろうとするものである。「新しい教育課程実現の課題」「学校経営」93年5月号)と明言した銭谷眞美初中局小学校校長、現文部科学省事務次官である▼梶田氏はそれでも「教員の『勘違い』が元凶」と強弁するのだろうか? (C・S)